

ケニアのキャンプ支援開始！

ケニアのサマーキャンプ支援の受付を開始します。

ケニアでは、年度替わりの休みに入る10月以降に、デイキャンプを開催します。

子どもたちは、キャンプが楽しみで楽しみで、興奮して、迎いのバスに乗り遅れないように、朝の2時か3時に起きる子もいます。キャンプは、彼らにとって本当に別世界なのです。食事があるかどうか心配する必要もなく、ウォータースライダー、グループゲームなどで楽しみ、もちろん、礼拝、祈り、神の御言葉の学びの力強い時間も体験できます。

昨年、アランは、すべての活動、仲間との交流、そして山盛りの食事に興奮していました。昼食時に、カウンセラーの1人が、アランが食事を食べ終わるのにとっても時間がかかっていることに気づきました。彼女は、彼の体調を確認するため様子を見に行きました。そして、時間がかかっていた理由がわかりました。アランの家族は、毎日ろくに食事でもできずに暮らしているため、彼は、家族に持って帰るために、おかわりを取りに行っていたのです。



昨年のキャンプの終わりに、ジャネットは「メトロが私と家族に与えてくれた素晴らしい支援に心から感謝しています！」と笑顔で言っていました。ジャネットは、小学校1年生の時から、メトロのスポンサーの支援を受けています。スポンサーは、彼女の制服や学用品、そしてちょうどいいタイミングで家族のために食料品を贈ってくれました。ジャネットはキャンプで、「信仰生活を築く」という学びに特に感銘を受けました。今、彼女は、自分が長年受けて

きたように、自分が関わる人々を助けたいと思っています。

一人でも多くの子どもたちが参加できるようにご支援をお願いいたします。

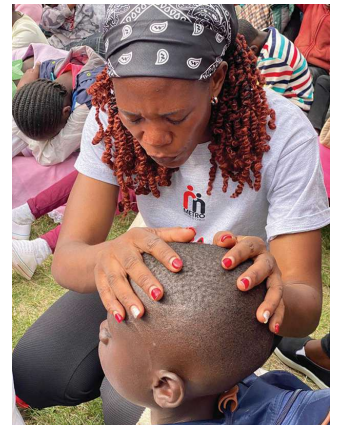
対象年齢は、6歳以上です。1件目は、ご支援いただいている子どものためのお申込になります。スポンサー以外の方でも、お申込いただけます。

同封の申込用紙をご確認の上お申込ください。



QRコードでのお申込はこちらから⇒

サイトからは、<https://metroworldchild.jp/ke-camp/>



1件 15,500円 締切は、8月25日

常時スポンサー募集中！

お申込はこちらから⇒

<https://metroworldchild.jp/apply-for-sponsor/>



今月の引き落とし日！

7月29日(月)です。口座をご確認ください！

今月号の目次

P2…ビル師からのメッセージ

P3…ビル師セミナー日程のご連絡

P4…日本事務所から大切なお知らせ

ビル師からのメッセージ

私たちには、それぞれ使命があります

退院して数週間後、私はキム医師からメールを受け取りました。多くの皆さんが、すでにキム医師のことはご存知だと思いますが、彼は、先日の私の心臓発作を担当した医療チームの外科医長です。

彼は私の心機能回復のリハビリ状況を知りたかったようですが、普通は退院して何週間も経った患者に、外科医が直接連絡を取って気にかけることなどほとんどありません。キム医師は私に、時間がある時に病院に来てくださいと言ってきたのです。

それで私は、マンハッタンの高層ビルにある彼のオフィスのロビーで、彼が昼休み前の最後の患者を診察し終えるのを待っていました。受付の担当者は、私が予約もせず彼を待っているの、明らかに困惑していましたが、「キム先生の友人で、お昼休みに会いに来ただけです」と伝えました。

彼は、ニューヨークでもトップクラスの心臓専門医として知られているので、普通はこのようなことはあり得ない訳ですが、私は彼に会って話せるこのチャンスを絶対に逃したくありませんでした。



そして、彼と二人で病院の一室の小さな会議室によく座った時、私は涙があふれてきました。私の命を救い、顔の見えない名もない患者の一人としてではなく、長年付き合いのある友人のように私を気遣ってくれた彼に、あらためて感謝しました。

今までに様々な形で医療機関のお世話になった豊富な経験(百科事典のような分厚い医療記録のバインダーがあるほどです)から、私には彼が特別な存在だとすぐに分かりました。

あの心臓発作の状況下では、「もしもこうなっていたら」と想

定される悪い事態は山ほどありました。もしカルテがなかったら、もしアジア行きの飛行機の中で発作を起こしていたら、もし…。しかし、神様は、いくらでももっと悪い状況になる可能性があったにもかかわらず、またもや私を守り、支えてくださいました。

皆さんと分かち合ってきたように、私がガザや世界中でしてきたことを彼と分かち合いました…。そしてもちろん、多くの皆さんから、私の命を救ってくれた彼への感謝のメッセージが送られてきたことを伝えました。

彼はフェイスブックもインスタグラムもやっていないので、そのようなことについて何も知りませんでした。外科医が、自分の知らない世界中の人々から感謝される機会がどれほどあるか分かりませんが、私はこのことをぜひ彼に知ってほしかったのです。それは重要なことだと思うのです!

どうして、私がこのような話をしているかわかりでしょうか。

世界中で毎週60万人以上の子どもたちに関わるこの働きでは、誰もが、その人にしかできない役割を担っているということを学びました。キム医師がいなければ、今、私はこうして働きを続けることはできなかつたでしょう。祈り、助け、サポートし、子どもを支援し、友人や教会に話し、フェイスブックの投稿をシェアしてくださっている多くの皆さんの誰もが、それぞれの役割を担っているのです。

キム医師をオフィスに訪ねたように、あなたを訪ねることはできないかもしれませんが、世界中のメロ口で常に重要な役割を担ってくださっている皆さん一人一人に、私がとても感謝していることを知ってほしいと願っています。

神様は、明らかにまだ私のことを見放していません。もちろん、皆様のこととも全く見放してなんかいないのです。

だから…、今日この日も、私たちは共に航海を続けるのです。あなたは一人ではありません…

感謝なことに、今年日本に行く機会を得ました。日本がコロナ対策で厳しい制限を続けていたことや各国の戦争被害者の救出で多忙だったこと、私の体調のことで長い間お目にかかることができず、5年も過ぎてしまったことをとても残念に思っています。

どうか、ご都合をつけて各地のセミナー会場にお越しください。直接一言でも感謝をお伝えできればと願っています。

セミナーのご案内

沖縄: 7月25日(木)午後7時30分

横浜: 7月27日(土)午後2時 & 28日(日)午前10時

東京: 7月28日(日)午後3時30分

大坂: 7月30日(火)午後2時 & 午後7時

詳細はHPから <https://metroworldchild.jp/>





私は今でもまだバスを運転します

「えっ? ビル先生は、今日もバスを運転して日曜学校の子どもたちを迎えに行くのですか?」

アジアから、はるばるメトロ・ニューヨークを訪ねて来られた方々が、数カ月前に心臓発作を起こしたばかりなのに、私がまだバスを運転していることに驚いてスタッフに尋ねました。

「素晴らしい! それなら彼のバスと一緒に子どもたちを迎えに行けますか?」 彼らは興奮気味に尋ねました。「もちろんです!」 スタッフは満面の笑みで答えます。メトロのブルックリンの本部には、一年中、世界中から日曜学校を見学に来る人が絶えません。

この日も、この牧師夫妻と2人のリーダーが台湾からメトロの本部を訪れました。彼らは、20年以上前に私の本「この子だれの子」を読み、メトロで実践している方法をいくつか子どもたちへの教会活動に導入しました。このご夫妻は、自分たちが育った教会で、主任牧師をこの10年間務めてこられ、彼らの地域だけでなく、中国人社会に大きな変化をもたらした影響力のある教会に成長しています。

数年前、私は説教のためにその教会へ招かれました。それ以来メトロを支援し、私たちのために祈り、メトロの子どもたちのスポンサーにもなってくれています。

実はこの訪問の直前の4月初めに、大地震が彼らの街を襲い、大きな被害を受けたにもかかわらず、メトロを訪問することを決めたというのです。なぜなら、宣教に対するビジョンを新たに、どうすれば、もっとメトロの働きに協力できるかを確

認することが、彼らにとって、とても重要だと考えたからです! そのことに私はとても感謝しています!

私は、毎日心臓のリハビリをしながら、週末はバスを運転し、世界中のメトロの重要な活動計画に取り組んでいます。メールやメトロのオフィスへの電話で私の様子を問い合わせてくださいたり、私のために祈り続けていると知らせてくださる多くの皆さんに感謝を申し上げます。

今年、メトロにとって重要な年となりつつあります。南アフリカ、フィリピン、ナイジェリア、マラウイ、本部のあるアメリカ、そして世界中で、主は、私たちのために宣教のための素晴らしく効果的な扉を開き続けてくださっているからです。

ご訪問くださった牧師たちに、メトロのスタッフミーティングの中でもお話しましたが、私がこの数か月間、メトロの働きへのご支援をお願いするために、各地での講演に出かけられなかったにもかかわらず、「パートナーシップの力」のおかげで、メトロは日曜学校を通して毎週世界中で50万人(現在は60万人)以上の子どもたちに手を差し伸べることができています。ですから、私たちを信じ、信頼し、祈り、助けてくださったことに改めて感謝申し上げます。

そして…

来週末もバスを運転して、また同じように子どもたちを迎えに行きます。…かつての私と同じような子どもたちを。

皆さんは、そのことをわかってくださっていると思います。

ありがとう!

ビル・ウィルソン

メトロでは、アフリカやその他の地域で、それぞれ数万人～数十万人単位の子どもたちを対象に活動していますが、働きは拡大を続け、ますますチャンスが与えられています。

関わる子どもが増えれば、助けを必要とする子どもや家族も増えていきます。スタッフとしてのインターンシップも募集していますし、もちろん、子どものスポンサーは常時募集しています。ぜひお祈りとご協力をお願いいたします。

メトロへのご支援は、以下からお申し込みいただけます。

<https://metroworldchild.jp/offering/>

お申し込み時に、献金の目的をご記入ください。スポンサーの方は、口座引き落としで献金することも可能です。電話やメール、FAXでも受け付けています。



子どものスポンサーについての詳細は、こちらから

<https://metroworldchild.jp/metrogeneralp/>



日本事務所からの重要なお知らせとお願い

注意!

偽サイトにご注意を!

ビル師の偽のSNSがたくさん発生しています。騙されて献金を送金されないように、くれぐれもご注意ください。

ビル先生の Facebook は以下の一つだけです。
<https://www.facebook.com/PastorBillWilson>

ビル先生が、直接献金を依頼することはありません。メッセージやその他の方法で、個人的に連絡することや友達申請することはありません。友達リクエストを受け取った場合は、その偽アカウントを Facebook に報告し、ブロックしてください。

メトロの働きやビル先生へのご支援は、必ず日本事務所を通してお送りください。

現在開催中のキャンペーン!

年間を通して様々な企画を行いますので、毎月のレポートを必ずご確認くださいのうえ、ご支援の参考にしてください。

現在行っているキャンペーンは、以下の通りです。

7月:ケニアキャンプ支援 8月25日締切

また、ご支援いただいています子どもの誕生日の前月には、お知らせの手紙を同封しますので、必ず開封して中をご確認ください。ご自身の状況に合わせてプレゼントをお考えいただければ幸いです。

口座引落手続きをされている方は、翌月のお引き落としに加算することもできますので、お振込みの必要もありません。



! 違いを生み出す月曜日!

メトロの働きは各国で急激に拡大し、サポートの必要な子どもの数は、飛躍的に増えています。新規スポンサーを常時募集していますので、よろしくお願いたします。コロナや戦争で、貧困地域の状況は悪化し続けており、ケニアでは、以前から食事をまともに食べることができない子どもがたくさんいましたが、今はさらに深刻な状況です。現地を訪問した若いスタッフは、その悲惨さを目撃して、「違いを生み出す月曜日」のキャンペーンを立案。一人でも多くの子どもにスポンサーを見つけようと努力しています。どうぞ、身近な方々にメトロをご紹介ください。

メトロ紹介&申込サイト⇒

<https://metroworldchild.jp/metrogenerallp/>



日本事務所よりごあいさつ!

大変お待たせしましたが、セミナーの日時がすべて決まりました。ぜひお近くのセミナーにご参加ください。

ビル先生は、心機能回復のリハビリを続けながらも、各地でのセミナーを続けています。今回のセミナーも、皆様にお会いするために、多忙なスケジュールの合間を縫っての来日となります。そして、ビル先生の人生は、神様が働かれる時に、一人の人を通してどのようなことが起こされるかという生きた証しです。すべての人々にとって、大変有意義なセミナーとなると信じています。

ご多忙のこととは思いますが、お仕事を休み、あるいは早退してでもご参加いただく価値のある時になると思います。学生や若い方々にとっては、今後の人生を左右するほどのインパクトがあるはずです。

皆様と当日会場でお目にかかれますことを楽しみにしております。

日本事務所代表 万代栄嗣(まんたい えいじ)



メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061

東京都中央区銀座5-14-6

橋ビルII 7階 TFC内

電話 03-6264-7370 (松山事務所 089-992-9020)

FAX 089-925-1501

メール metrojapan@mission.or.jp

URL <https://metroworldchild.jp/>



すべてのお振り込みは、下記宛にお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン